

歯周病と動脈硬化

林 千絵

歯周炎は、歯の喪失に繋がる歯周組織の進行性の破壊を特徴とする微生物によって引き起こされる多因子性の慢性炎症性疾患である。これは、歯肉炎とは区別されるべきものであり、公衆衛生上で大きな問題として取り上げられるべきものであると言える。歯周炎は歯の喪失につながる大きな原因となりうる疾患で、咀嚼機能障害をも引き起こす。さらに昨今、歯周病と全身への慢性炎症の波及の関連が問題視されるようになり、歯科医師も歯周治療を適切に高いレベルで行うにあたってこれらに関する深い知識が求められる。

糖尿病と喫煙は歯周病との高い関連性のエビデンスが確立される中、アテローム性の動脈硬化と歯周病の関連もそれにつぐ関連性が確立されつつある。歯周病と心血管疾患の関連性と、歯周炎の予防や治療が心血管疾患に影響を与えるエビデンスを検証していきたいと思う。